

2024

推薦図書



- 1 目次
- 2 推薦図書（教職員・図書委員）
- 3 編集後記

群馬県立太田フレックス高等学校図書室

目次

校長	『夜と霧』	1
	『ものの見方検定』	1
副校長	『言葉の花束 困難を乗り越えるための“自分育て”』	2
	『樹木希林 120 の遺言』	2
	『どう生きるか つらかったときの話をしよう』	3
I・II部		
先生	『俺たちの箱根駅伝』(上下)	3
先生	『わかりあえないことから』	4
先生	『裁判官の爆笑お言葉集』	4
	『キッチン・セラピー』	5
	『ぼくらの戦争なんだぜ』	5
先生	『ムクウエゲ医師、平和への戦い』	6
先生	『悪の令嬢と十二の瞳』	6
先生	『希望のひとしづく』	7
先生	『インド旅行記』	7
先生	『変な家』『変な絵』	8
先生	『明日の子供たち』	8
先生	『北関東の異界 エスニック国道 354 号線』	9
先生	『犬がいた季節』	9
先生	『あした死ぬかもよ?』	10
先生	『俺には俺の生き方がある』『無理をして生きてきた人』	10
	『賢治と「星」をみる』	11
先生	『トラペジウム』	11
先生	『縞模様のパジャマの少年』	12
	『The Boy in the Striped Pyjamas』	12
先生	『破船』	13
先生	『苦しかったときの話をしようか』	13
先生	『おあとが よろしいようで』	14
III部		
先生	『リカバリー・カバヒコ』	14
先生	『女子とお金のリアル』	15
先生	『1日1ページ、365日で世界一周』	15
先生	『つかめ!理科ダマン』	16
先生	『外国人まかせ 失われた30年と技能実習生』	16
先生	『King Arthur』『The Phantom of the Opera』	17
通信制		
先生	『グレート・ギャッツビー』	17
事務部		
学校司書	『カラフル』	18
図書委員		
(I初)	『落雷はすべてキス』	18
(I初)	『君の臍臓をたべたい』	19
(I初)	『走れメロス』	19
(II初)	『成瀬は天下を取りにいく』	20
(II初)	『きみはいい子』	20
(I中)	『川のほとりに立つ者は』	21
(II中)	『ハッピーバースデー』	21
編集後記		
		22

『夜と霧』

ヴィクトール・E・フランクル著（池田香代子訳）

みすず書房

この本は、第二次世界大戦中、心理学者であったユダヤ人の著者が、ドイツの強制収容所に収監され、そこでの過酷な体験と奇蹟的に生還するまでの記録を書いたものである。高校生には難解な本であり、おそらく理解することは難しいと思われる。読み始めると、暗く重い気持ちを持つかもしれない。それでもあえてこの本を選んでみた。その理由は、……。
（ぜひ挑戦してみたいと思う人は、冒頭部だけでもあるいは読み飛ばしでも構わないので、手に取ってみてほしい。）

人間の奥深さとそのすごさに打ちのめされることだろう。

校長



『ものの見方検定』

ひすいこたろう著 祥伝社

前回（もう1冊）紹介した本が、重めの本だったので、今回は、軽めの本を1冊紹介します。本の副題は、「最悪は0.1秒で最高にできる！」です。人生を楽しくするか、つまらなくするかは、考え方しだいということで、様々な場面での「ものの見方」を紹介してくれています。例えば、「道を歩いていて、犬の糞を踏んでしまったとき、あなたならどんな風に考えますか？」

見方を変えればすべてが変わる、そんな気づきを与えてくれる本です。

校長



『言葉の花束 困難を乗り越えるための“自分育て”』
サヘル・ローズ著／講談社

皆さんは、サヘル・ローズさんを知っていますか。もし、知らない人がいたら、すぐに検索してください。動画もたくさんあります。私は、「きっと恵まれた外国出身のタレントさん」だと思っていましたが、まったく違いました。サヘルさんは、本当の名前も生年月日も知りません。生まれはイランで7歳まで孤児院で過ごしました。義母に育てられ、日本の中学校では、貧しさと国籍でいじめを受けていました。

現在にいたるまでに、サヘルさんは、どのような人生を歩んだのでしょうか。「誰かが見てくれる」この言葉がどこにあるか探してください。

副校長



『樹木希林 120 の遺言 死ぬときぐらい好きにさせてよ』
樹木希林／著 宝島社

生徒の皆さんは、樹木希林（きききりん）さんを知っていますか。若い頃から老け役をこなしていた女優さんです。知らない人は一度、SNS で検索してみてください。もうこの世にはいませんが、生き様を含め一言一言がとても大きな参考になります。いくつか挙げます。「持っているもので、なんでもやっていだけ。」「マイナスのところを、違う言葉でもって評価するようにしているの。」「年を重ねるごとに力のあるいい顔になりたいんです。細胞が全く動かなくなり、心も全く執着がなくなるまで生きてみたいなあと思うんです。そうならば納得して死ねるんだけどなあ。」

副校長

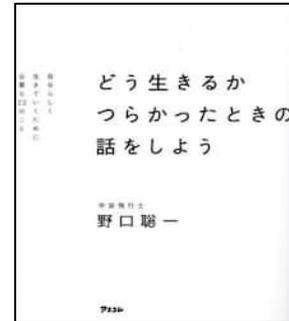


『どう生きるか つらかったときの話をしよう 自分らしく
生きていくために必要な22のこと』

野口聡一／著 アスコム

皆さん、宇宙飛行士の野口聡一さんを知っていますか。漫画『宇宙兄弟』にもあるように、宇宙飛行士になる試験はとて大変です。これを読むまでは、野口さんは何でもできるスーパーマンだと思っていました。そんな野口さんでも、「自分はいらない人間なんだ」と10年間苦しんだ時期がありました。そんな中、「他者の価値観や評価、他者との関係性に基づいたアイデンティティはもろい」と感じ、①自分のアイデンティティを自分一人で築く②自分の棚卸しをし、自分の奥底にあるものを探る③評価軸を自分に取り戻し、人生に意味づけをする、大切さを伝えていきます。ぜひ一度読んでください。新たな自分が見つかります。

副校長



『俺たちの箱根駅伝』(上下)

池井戸 潤／著 文藝春秋

昨年のアカデミー賞脚本賞受賞作品「シャイロックの子供たち」(阿部サダヲ主演映画)の原作者、池井戸潤の最新長編の舞台は、「東京箱根間往復大学駅伝競走」——通称・箱根駅伝。

若人たちの熱き戦いが、いま始まる！
(ネタバレはしません。とにかく読んでください)

この本を読み終えて、来年の箱根駅伝を観戦すると、違った視点で楽しめるでしょう！

英語科 (I・II部)



『わかりあえないことから』
平田オリザ／著 講談社現代新書

以下、まえがきより抜粋してみます。

「世間では、ただ漠然と『コミュニケーション能力』が、やみくもに求められている。いったい、人びとは、そこに何を欲しているのだろうか？」
「中高年の管理職たちは、近頃の若者はコミュニケーション能力がないと嘆いている。はたして本当にそうなのだろうか。」
「学校の先生方や親たちは、子どもの気持ちがわからないと嘆く。何が問題なのだろうか？」
「ロジカル・シンキング、クリティカル・シンキング、グローバル・コミュニケーション・スキルといった言葉が踊る昨今の状況に、はたしてそれだけで大丈夫なのかという劇作家としての直感を元に本書は構成されている。」
「文中では、コミュニケーションにおける無駄（ノイズ）の大切さや、学校の授業は『メチャクチャに教えた方がいい』といった主張が、アンドロイドの話や演劇の話題、そして国語教育や日本語教育についてといった一見バラバラなトピックの中にちりばめられている。」



2012年に発行されたものですが、データ以外は少しも錆びていない内容で、現状に通じるものがあります。興味を持った人は読んでみてください。
I II部 数学科

『裁判官の爆笑お言葉集』
長嶺超輝／著 幻冬舎

きっかけは、裁判官が公判で容疑者に向けた言葉により、容疑者の心を動かした、ということを知ったからです。

「裁判」というと、判決そのものや、最高裁判所裁判官国民審査の時にどんな裁判官がどんな意見を述べたか、に関心をもつくらいでした。

裁判所や裁判官は、法の範囲内で言葉を述べるのだと思いますが、その中に深い思いを込める裁判官もこんなにいるのだ、とちょっとホッとしました。制約の多い職業の一つだと思いますが、本書に登場する、人情があり正義の味方の裁判官達を応援している声が届くといいなと思います。

英語科・



『キッチン・セラピー』

宇野 碧／著 講談社

職員室の図書コーナーを眺めていて、表紙絵に惹かれ手に取りました。登場人物の多くに自分が反映されている気がして、物語の中に入り込みました。自分と同じような思いをしている人がいる、という気づきは、少し安堵感を与えてくれました。

英語科・



『ぼくらの戦争なんだぜ』

高橋源一郎／著 朝日新書

著者にはずっと興味を持っていましたが、著作物を手に取ることはありませんでした。今回、題名に惹かれて「よまなくちゃいけない本だ。」と思い少しずつ読み進めました。

最初はなかなか頭にしみこんでこず、苦勞しましたが、1/3 ほどしたところから読み進められるようになりました。題名から推測した内容とは異なり、「やっぱり読んでよかった、読まなくちゃいけない本だ。」と思いました。「私の戦争」がちょっと薄れているところだったので。

英語科・



『ムクウエゲ医師、平和への戦い』

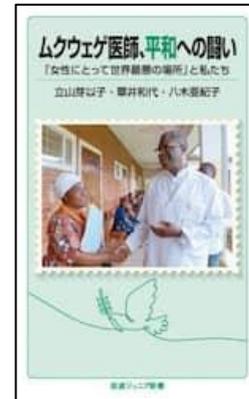
「女性にとって世界最悪の場所」と私達』

立山芽以子・華井和代・八木亜紀子／著

岩波ジュニア新書

太フレでもほとんどの人が1つ以上持っているスマホ、ゲーム機、アクセサリ類。その原料に使われる金属の原産地コンゴ。金属が採掘される場所でどんなことが起きて、それらの金属が私達のスマホに使われるようになるのか。この本を読むといろいろな考えさせられ、物の見方が変わることもあるかも知れません。スマホやゲーム機の使いすぎで依存症になっている人が多いのは、原産地で被害に遭った人達の「呪い」なのかも？

I・II部 家庭科



『悪の令嬢と十二の瞳 ～最強従者たちと伝説の悪女、人生二度目の華麗なる無双録』 駄犬／著 オーバーラップノベルス

主人公は婚約破棄され、転生した公爵令嬢セリーナ。「私に足りなかったのは屈強な従者だわ」彼女は孤児院から6人の子供たちを選び出し、過酷な訓練をほどこす。従者たちと番犬、セリーナはモンスター退治などで有名になるが、二度目の人生を送る彼女の目には、周囲の人々はまったく異なって見えた…。セリーナの発言や行動がとにかく規格外&想定外、大笑いしてラストで泣きます。

地歴・公民科



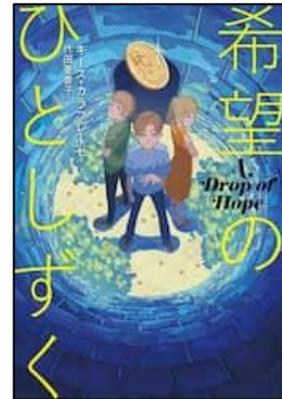
『希望のひとしずく』

キース・カラブレゼ／著 代田亜香子／訳 理論社

この本は奇跡の本である。心温まる、優しい奇跡の本である。井戸に行って、コインを入れて、願いを言う。たまたまその願いを聞いてしまった3人の物語。だけれども、彼ら3人が意図的に奇跡を作ったわけじゃない。彼らのちょっとした失敗や行動がいくつもの偶然に巡り合って願いを叶える。最後まで、この物語は井戸の奇跡によるものである。

でも、この本は、ファンタジーでなくヒューマンドラマである。なぜ？って。それは読んでのお楽しみ。さて君は、今日「誰のために」動いてみようと思う？

芸術科音楽 (I・II部)



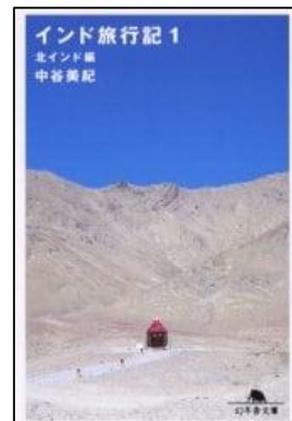
『インド旅行記』中谷美紀／著 幻冬舎文庫

この夏、私はインドに行った。

北インドと南インドの主要な町や遺跡を見て回り、もちろんガンジス川の混沌とした様子も見た。

都市の道ばたに座り込み、バクシーシ（お布施）を求める人々、観光客と見て高い料金をふっかけるリキシャのドライバー、人々の間をすり抜ける野良牛たち。牛です。野良犬ではなくて。噂には聞いていたけれど、なんという混沌としたエネルギーに満ちた国。私の脆弱な免疫力では太刀打ちできないと思い、ガンジス川に浸かることはできなかったけれど、河岸から見た光景にはインドの懐の深さを思い知らされた。雄大な流れで沐浴する人、洗濯物を洗う人、歯磨きをする人、その横を流れる汚物など。ああ、インド！！

I II部国語科



『変な家』／『変な絵』

雨穴／著 飛鳥新社

この本は、必ずランキングの上位に入っていて、映画化もされたので、皆さんも本屋で一度は見かけたことのある本だと思います。私は本をほとんど読まない人間なのですが、たまたま息子の部屋で発見したので、手に取りました。感想はとにかく面白い！！早く読みたい、次にどうなるのか知りたいという感じで、一気に読んでしまいました。作者はホラー作家ということで（私は怖がりなので）最初は怖い本なのかなと警戒しましたが、全然怖くないです。むしろ面白さの方が勝ちます。あらゆる伏線がところどころに張られていて、それが見事に回収されていきます。圧巻です。個人的には『変な絵』の方が好きです。皆さんもぜひ読んでみて！！おすすめですよ。

保健体育科・



『明日の子供たち』

有川 浩 著／幻冬舎

児童養護施設ってどんなところ？
そこで生活する子どもたちや職員さんの実情と抱えている課題が描かれています。
とても読みやすく、社会問題も知ることができる作品です。
最後の「解説」まで、ぜひ読んでください。

I・II部 公民科・



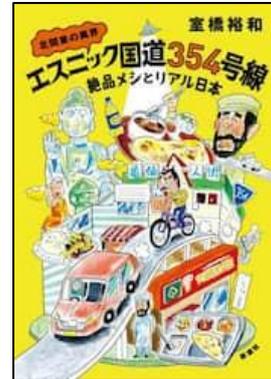
『北関東の異界 エスニック国道 354 号線』

絶品メシとリアル日本』 室橋裕和／新潮社

大泉町に勤めていた頃、地元のブラジル料理屋やパルー料理屋によく行きました。太フレでは、授業の子から、お勧めのインド料理屋や、パキスタン料理屋を教えてもらいました。…それにしても、どうしてこの辺は、こうも色々な国の料理が食べられるのでしょうか。

この本を読めば、その謎が解けます。私たちになじみ深いあの 354 線沿いの一帯が、なぜここまで多国籍になったのか。この地域に济む人々の様々な背景も含めて、筆者の綿密な取材に基づいて描かれた、珠玉のルポルタージュです。太フレの子たちの顔も思い浮かべつつ。読むと確実にお腹が減りますよ。

I・II部 国語科・



『犬がいた季節』 伊吹有喜 著／双葉社

高校時代…そう、あの無邪気で無防備で真っ直ぐで繊細な時代…。この物語の中には、そんな高校生のかたわらに犬の“コウシロウ”が寄り添ってくれています。高校生たちの人知れぬ悩みを、ただただ側で見てくれていたコウシロウ。その存在があったからこそ、高校生たちは全力でもがくことができたのだと思います。先生にもかつてそんな想いで過ごす日々がありました。この本に出会い、思い出せたことが嬉しいのです。

青春真っ只中であって無我夢中で毎日を駆け抜けている高校生のみなさん！今、このときを大切にしてくださいね。

養護教諭：



『あした死ぬかもよ?』

ひすいこたろう／著 Discover21

「90年の人生を振り返って唯一後悔していることは何ですか?」この質問は「アメリカで、90歳以上のご老人に聞いたもの」だそうです。「これに対して、なんと、90%の人が同じ答え」だったそうです。その答えってどんなものだったと思いますか? 「もっと冒険しておけばよかった」です。みんな死なないと思っているから、毎日無難に過ごそうとしちゃうのかも。あした死ぬと思ったら今日という日をダラダラとは過ごさない、きっと。「なんでも思い切ってやってみろよ。どっち転んだって、人間、野辺の石ころと一緒に。最後は骨となって一生終えるのだから。思い切ってやってみろよ。」坂本龍馬の言葉が背中を押してくれます。

I II部 英語科



『俺には俺の生き方がある』(1965年) 加藤諦三 著 大和書房

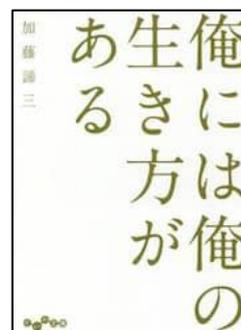
『無理をして生きてきた人』(2024年) 加藤諦三 著 PHP研究所

本校図書館の新着図書のコナーで加藤先生の本を目にし、とても懐かしい思いが湧いてきました。加藤先生は著作が700冊にも及ぶ人気の作家・社会心理学者です。ニッポン放送の『テレホン人生相談』のメインパーソナリティーを50年以上も務めています。加藤先生と私の出会い(先方は私を知りません)は、高2の時、学校で行われた講演会にさかのぼります。かなりの費用をかけてお招きしたと聞きました。その後、書店で偶然手にしたのが先生の処女作『俺には俺の生き方がある』でした。青春の一冊となりました。ベストセラーだったようです。

先生は著書『人生の悲劇はよい子に始まる』で、よい子になろうとするあまり自己を見失ってしまうことが様々な問題を招くと述べています。上の『無理をして生きてきた人』は、そういったことを乗り越えるための方策を示していると思います。

今の私が『俺には俺の生き方がある』を読むとどう感じるのか。読み直してみました。結果、今でも共感しました。しかし、当時共感して、折り目をつけておいたところには何も感じません。成長したのか、純粹さを失ったのか。面白いですね。

I II部 理科



『賢治と「星」をみる』 渡部潤一著 NHK出版

宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』を読んだことはありますか。もちろん、私も読んだことがありましたが、衝撃的な最後のシーン以外、あまり記憶に残っていません。肝心の銀河鉄道で天の川を旅するところは、しっかりと理解できていなかった気がします。

宮沢賢治は、農学校の教師を辞め、農家の方々に献身的に農業や肥料の指導を行ったことはよく知られていますが、天文についても非常に造詣が深く、作品の中にも当時最先端の知識が随所に盛り込まれています。この本では、天文学者の渡部潤一さんが、宮沢賢治の残した作品の宇宙や星空に関する記述をたどり、そこから賢治という人物をたどる思索の旅を案内してくれます。

私は渡部さんの解説により、『銀河鉄道の夜』の様々な情景に込めた賢治の思いが分かってきました。時には、賢治が追い求めた「皆の幸せ」の世界に触れるのもいいのではないのでしょうか。

I II部 理科



『トラペジウム』

高山一実／著 KADOKAWA

巻末の解説が秀逸なのでまんまコピペでメンゴ……。人が小説家になる瞬間を見たことがあるか？ないならば、本書を読めばいい。この1冊のどの一文にも書き手が小説に対して抱いた衝動と不安と恐怖。そして楽しさと喜びが形を変えて溶かし込まれている。それらに触れれば、自分もまた何か新しく始めたいくなる。夢を探したくなる。誰かと会いたくなる……。

数学科・

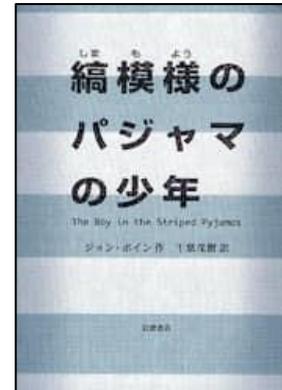


『縞模様のパジャマの少年』 ジョン・ボイン／作 岩波書店

ホロコーストという言葉を知っていますか。ナチスドイツ政権とその同盟国によるヨーロッパのユダヤ人約 600 万人に対する国ぐるみの組織的な迫害および虐殺行為のことです。

ブルーノは軍人である父親の仕事の都合でベルリンから見知らぬ土地へ引っ越してきました。遊び相手もない状況に限界を感じ始めたブルーノは、家から離れた場所に小屋があるのに気づきます。大人には内緒でそこへ行くと、縞模様のパジャマを着た少年シュムエルが有刺鉄線の向こう側に座っていました。シュムエルはユダヤ人でドイツ軍により迫害を受けていました。友達のいない状況に寂しさを感じていたブルーノと強制労働でつらい思いをしていたシュムエルに友情が芽生えます。ブルーノはただ一人の友達であるシュムエルと過ごす時間を大切にしていました。ある日、父親と意見が異なるブルーノの母が子供達を連れてベルリンへ戻ることを決意します。ブルーノは引越しの当日、シュムエルの父を探すため、シュムエルと同じ縞模様のパジャマを着て強制収容所に紛れ込みます。

I 部 英語



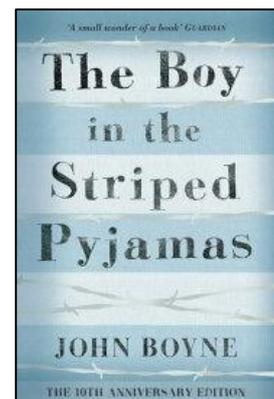
『The Boy in the Striped Pyjamas』 JOHN BOYNE Penguin Random House

Do you know the word 'Holocaust'? It refers to the systematic persecution and mass murder of approximately 6 million European Jews by the Nazi Germany.

In the 1940s, a nine-year-old boy, Bruno, moved from Berlin to a distant place. When he found himself without any friends around, he noticed some huts far from his new house, separated by a tall fence. While exploring one of the huts, he found a boy sitting on the ground. The boy, named Shmuel was Jewish and wore the same striped pyjamas that all the other people on that side of the fence wore. Bruno periodically went there talking with Shmuel over the fence. The more time they spent together, the closer they became. One day, Bruno's mother decided to return to Berlin, but without Bruno's father, who was in charge of the army. Bruno felt uneasy about leaving Shmuel behind. On the morning of their departure, Bruno decided to explore the hut with Shmuel to find Shmuel's father, fulfilling a promise he had made. To sneak into the hut safely, Bruno dressed in the same striped pyjamas.

After reading this story, you must want to hug the boys, Bruno and Shmuel.

I 部 英語



『破船』

吉村昭／著 新潮文庫

舞台は日本海沿岸の漁業以外に何もない貧しい漁村。そんな村に伝わる秘密の慣習。それは、村人たちが漂流する船を巧みに海岸におびきよせて座礁させ、船に残った人の命を奪い、積み荷をことごとく奪い取るというもの。ある冬、待ちに待った「お船様」が漂着します。ところが「お船様」が運んできたのは大量の人間の屍でした。死体は顔も体も豆大の水ぶくれで覆われ、皆一様に同じ症状を示していました。それでも村人は屍から着衣をはぎ取り持ち帰ります。やがて村に謎の高熱にうなされる者が次から次へと出始め、その壮絶な病状の描写は読み続けるのが困難なほど。貧困によって人間の理性と肉体がむしばまれ、果ては村全体が壊滅していく様子が感情を突き放した筆致で淡々と描かれています。



国語科

『苦しかったときの話をしようか～ビジネスマンの父が我が子のために書きためた「働くことの本質」～』
森岡 毅／著 ダイヤモンド社

自分の強みを聞かれたら答えられますか？
皆さんにはこの本を読み、強みを見つけしてほしいと思います。すでに強みを理解している人は、新たな強みを発見する機会になるかもしれません。

この本はこれから社会へと羽ばたく皆さんにぜひ読んでほしいと思っています。なぜならこれからの日本を作っていくのは間違いなく皆さんだから。

自分の強みを知り、社会へと羽ばたく準備をしましょう!!

地歴公民科



『おあとが よろしいようで』

喜多川 泰/著 幻冬舎

大学入学のために親元から離れてアパートでの一人生活を始めた暖平は、高校時代までの無味乾燥な生活がこれからもずっと続くと思っていましたが、あることから落語研究会に入り、そこから新たな人生が始まります。

この本の帯にある「人は皆、出会ったものでできている。」という言葉が心に沁みて、読み終わった後に、ほっこりした気分になります。

英語科



『リカバリー・カバヒコ』

青山美智子/著 光文社

昨年度紹介した『月の立つ林で』の著者の作品です。今回の作品も「癒やし」や「許し」、「希望」や「優しさ」を感じさせてくれる物語になっています。前作では、広がっていく人と人とのつながりの中で、自分に向き合うことで自分らしさを見つけることができることが伝わってきました。今作では、人と人とのつながりの中にある相手を思う気持ちはそのときはわからなくても必ずお互いを支えるものになっていることに気づかせてくれます。読み終わったときには、きっと人にも自分にも優しくなれる作品です。

Ⅲ部 地歴・公民



『女子とお金のリアル』

小田桐あさぎ／著 すばる舎

トーハンビジネスランキング No.1
(出版日から3日で7万部 現在10万部を超える)

◎お金の使い方についての本です。

厳しい母の元で幼少期から一見いい子に育ち、進学校（高校）に進むが、中退し、社会人へ。手取り14万円から、現在年商14億円までのみちのりやお金に対するマインドがわかる本。著者のリアルな記録がわかりやすく描かれています。14億稼いだ結果最近の著者のコメントが知りたい方は、根岸まで(´艸`)

家庭科



『1日1ページ、365日で世界一周』

井田仁康／監修 成美堂出版

世界に関心があっても、なかなか世界の全ての大陸を回ることはできません。しかし、この書物は世界一周（地球全体を一周すること）を手軽に楽しむことができます。眺めるだけで本当に旅気分になり、読めば世界の地理に詳しくなります。

Ⅲ部 理科



『つかめ！理科ダマン』シリーズ
シン・テフン／作（韓国） マガジンハウス

「爆笑しながら、理科の知識が身につく！」と日本と韓国で話題の本です。漫画形式になっており、理科の内容でも苦にならず読むことができます。生徒の皆さんが少しでも理科に興味を持つきっかけになってくれると嬉しいです。シリーズ物なので、自分が読みたいテーマのものを手に取ってみてください。読んでみたら、日常の出来事が少し違って見えるかもしれませんよ。

理科・



『外国人まかせ 失われた30年と技能実習生』
澤田 晃宏著 CYZO 社

日本では急速に外国人が増えています。この本では外国人が働く現場を徹底ルポして現状を掘り下げています。人手不足の不都合な真実と、彼らに見限られる可能性のある日本の恐ろしき未来を予測しています。外国人労働者に「依存」するニッポンの現実と将来を考えるきっかけとなると思います。

数学科



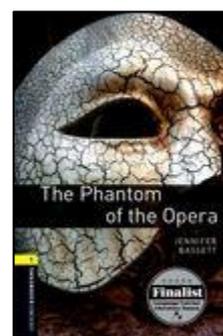
- ① 『King Arthur (Oxford bookworms starters) 』
著書：Janet Hardy-Gould 出版社：Oxford University Pr

誰もが一度は聞いたことがある「アーサー王」の物語です。
序盤は出会いと成長の物語、中盤では周囲との信頼関係、最終的には・・・。
出版社も世界的に有名な、オックスフォード大学であり安心できる内容です。
大学の出版局が出版しており、読み手に合わせた段階別書籍の種類が豊富です。



- ② 『The Phantom of the Opera (oxford bookworms library level 1)』
著書：Jennifer Bassett 出版：Oxford University Pr

ミュージカル作品としても有名な『オペラ座の怪人』。
煌びやかな中世ヨーロッパの歌劇場を舞台に起きる様々な事件、怪人・歌姫・歌姫
の幼なじみの三角関係が描かれた物語。
分かりやすい英語で書かれた本です。教養への足がかりとして触れてみてはいか
がでしょう。



- ①② どちらも本来の内容と比べると大幅に内容を省略されていて、少ない字数
で内容の概要を知る機会を得られます。
まずは、このような面白くて魅力的な書籍があることだけでも知っていただけ
たら嬉しいです

Ⅲ部 養護教諭・

『グレート・ギャツビー』

F・スコット・フィッツジェラルド著 IBCパブリッシング

第一次世界大戦後の1922年、ニューヨーク近郊のロング
アイランドが舞台。経済的に何不自由ない生活を送り、戦争
では英雄として活躍した主人公。彼の大邸宅では連夜、盛大
なパーティーが催され多くの人が招待されたが、彼の素性を
知る人は誰一人おらず、また主人公自身も天涯孤独を自認し
ていた。

そんなある日、主人公の人生はある人物との再会によっ
て、愛情、誤解、嫉妬、孤独…と複雑な人間関係によって大
きく翻弄され、悲劇で幕を閉じる。

アメリカンドリーム of 幻想と現実とのギャップを、1920
年代アメリカの雰囲気や時間の流れを感じながら読んでほ
しい作品です。



英語科・

『カラフル』

阿部 暁子／著 集英社

高校入学式の朝、荒谷伊澄は駅のホームでひったくり犯を捕まえた時に、犯人の前に出て足止めをしようとした、車椅子に乗った少女、渡辺六花と出会う。彼女も伊澄と同じ綾峰高校の新入生だった。2人には、夢を断念せざるを得なかったという過去があった。伊澄は陸上競技を、六花は舞台俳優の夢を諦めていた。そんな共通点を持つ2人が、よきクラスメイトとして心を通わせるなかで、未来への新しい希望が生まれ、世界がカラフルになっていく。

読んだ後、自分という存在を大切に思えるようになり、未来に希望が持てるようになります。ぜひ、高校生に読んでもらいたい青春小説です。

学校司書



『落雷はすべてキス』

最果タヒ／著 新潮社

私は「落雷はすべてキス」を読んでみて、気に入った詩は「満月の奥にぼくの心臓がある、ぼくが孤独だと泣くあいだ、ひときわ月は綺麗です、それを見て、誰かが誰かに愛を伝えている 満月の詩」です。気に入った理由は孤独を感じて、月を見たときに自分が思った事と似ていたからです。「月が綺麗ですね」という言葉があります。その言葉は「愛してる」という意味があります。だから私は、「ひときわ月はきれいです、それを見て、誰かが誰かに愛を伝えている」というところに「月は綺麗ですね」が関連しているのではないかと解釈しました。詩全体を見ると、切なさやロマンチック要素があるように見えます。自分の孤独感と他人の愛。心の中では変な味がします。でもいつかその孤独感を乗り越えて、人は愛を見つけるときがあると思います。

ぜひ「落雷はすべてキス」を読んでみてください。

I 部初級 図書委員



『君の臓腑をたべたい』
住野よる／著 双葉社

住野よる著の小説。2015年に双葉社より刊行。
2017年に実写映画化、2018年にはアニメ映画化された。
ストーリー

臓腑の病気で余命短い女子高生・山内桜良と、クラスメイトの男子高生が織りなす青春恋愛小説。

桜良は、自分が病気に侵されていることは誰にも知られたいくないという思いから、明るく振る舞い、周囲から距離を置いていた。そんな桜良の秘密を知った主人公は、彼女と次第に距離を縮めていく。

『君の臓腑を食べたい』は、青春、死、そして生きる意味について考えさせられる作品です。この作品は多くの人に感動を与えてきました。まだ読んでいない方は、ぜひ一度読んでみてください。

I 部初級 図書委員

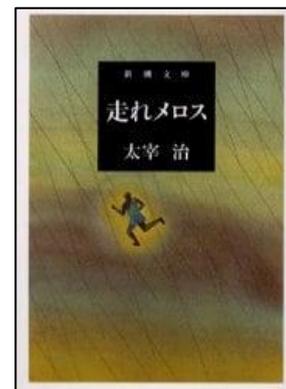


『走れメロス』
太宰治／著 新潮文庫

私がおすすめるのは、太宰治の『走れメロス』です。

この本は、のんきで単純だが、邪悪に対しては人一倍敏感なメロスが、人を信じる事が出来ない邪知暴虐な王に、信実とは何かを伝えるお話です。私は、メロスの友に対する真っ直ぐな思いや、それに応える友の愛情に感動しました。誰も人を信じられなくなって、疑心暗鬼になってしまったり、夢や目標のために沢山努力を積んでも、上手く結果に結びつかなくて、全てどうでもよくなり、諦めそうになるときがあります。そんな時にこの本を読むと、人を信用する大切さや、諦めずに努力した先にあるものを、思い出させてくれます。読み終えるまでハラハラする気持ちが止まらないけど、最後にメロスの友が放った一言は、とても印象的で、安堵と喜びを与えます。メロスの友は何と言ったのか、ぜひ読んで確かめてみてください。

I 部初級 図書委員



『成瀬は天下を取りに行く』

宮島未奈（著）／新潮社

この小説は優秀すぎて孤立している変な女の子の話です。彼女の名前は成瀬あかり、中学2年生です。彼女は幼少期の頃から他の子とは一線を画していました。走るの誰よりも速く、歌や絵も上手い！そんな彼女は、この才能を誰かに自慢することもなく自分に正直に、マイペースに、そして自分を曲げることなく生きています。しかし学年が上がるにつれて成瀬はどんどん孤立してしまうのですが、成瀬はそんなことはもろともせず、マイペースを貫いています。そんな成瀬が人生に全力で向き合っている姿を見て、あなたも勇気もらえるはずです。断言します！！この小説を読み終わる頃には、あなたも！成瀬のことが大好きになっているはずです。



Ⅱ部初級 図書委員

『きみはいい子』

中脇初枝(著)／ポプラ社

虐待をテーマにした話で「サンタさんの来ない家」「べっぴんさん」「うそつき」「こんにちは、さようなら」「うばすて山」の五作品があります。その中でも「うそつき」についてです。

表裏のない素直な母親、そんな母親に似た息子は素直でいい子。初めて友達を家に連れてきたがその友達は「継母が親を殺しご飯を与えてくれない。」と。そんなことが信じられずに息子は友達を嘘つきだと思い込みます。でも実際どんどん痩せていく友達を見れば嘘じゃないことは一目瞭然。遠く離れているのに自転車を漕いでくる友達が遊びに来たときくらい沢山食べさせてあげよう。でも家が遠く同じ中学に通えず息子の友達のことを思う父親。自分の少年時代と重ね合わせ、辛いことがあっても幸せな記憶が二人を救うことを祈ります。

「うそつき」だけでなく他作品も沢山考えさせられるものになっているのでぜひ読んでみてください。



Ⅱ部 初級 図書委員

『川のほとりに立つ者は』
寺地はるな／著 双葉社

この本はカフェで働く女性店長、原田清瀬が、喧嘩別れをしていた恋人の松木が怪我をし、意識が戻らないと連絡を受けたところから、進んでいく物語です。松木の怪我の謎や喧嘩の原因となった幼く拙い字で書かれた、ある女性への手紙。物語が進むにつれ明かされてゆく真相にはワクワクが止まりません!! 清瀬や松木の心情や考え方の変化に深く深く考えさせられ、この本を読まなかったら考えられなかった、つまりこの本を読んで自分の心の幅が広がったと、とても強く感じています。ディーブな話ですが本当に面白かったのでぜひ読んでください。

I 部中級 図書委員



『ハッピーバースデー』
青木和雄／著金の星社

母親の精神的虐待から、声をなくしてしまった主人公あすか。しかし、祖父母の愛と自然の力で回復し、あすかは強く変わっていく。そんなあすかの姿を見て、親の期待通りに生きてきた兄・直人も自分の人生に疑問を持ち始める。そして、娘を愛することができない母親も初めて、自分の心の問題にむきあおうとする。過去に辛い経験を持つあすかが、自分と周囲の人々を変えていく姿はこの本を読む人全員に生きる希望と勇気を与えてくれる。愛の力、自然の力は偉大で良くも悪くも人々の人生を大きく変えてしまうということを強く感じられる一冊です。

II 部中級 図書委員



編集後記

10月27日(日)から第78回読書週間が始まります。図書委員会では、フレックス高生の皆さんが、本と触れ合う機会を持ち、読書週間を有意義に過ごしてもらいたいことから、読書案内を作成しました。この冊子では、校長先生、副校長先生をはじめ、I・II・III部・通信制の先生方、I・II部図書委員の皆さんがお勧めの本を紹介しています。読書のきっかけづくりや、読書の参考にしてもらえれば幸いです。

この冊子で紹介した本は、すべて本校の図書室に置いてあります。この他にも図書室には、生徒の皆さんや先生方のリクエストで購入した本、芥川賞や直木賞、本屋大賞を受賞した本をはじめ、いま話題になっている本、映画化・アニメ化された本、ライトノベル、知識や教養を身に付ける本、進路選択に役立つ本、日本や外国の文豪の名作(英語版もあり)など、様々な分野の本が揃っています。読書への発展を期待して、マンガも置いてあります。進学や就職試験の面接などでは、最近読んだ本や感銘を受けた本について、聞かれることもよくあります。読書をすると役立つことばかりです。まずは1冊、気になる本を見つけ読書してみてください。

最後になりますが、推薦図書を紹介して下さった先生方、ありがとうございました。また、図書委員の皆さんお疲れ様でした。

群馬県立太田フレックス高等学校 I・II部図書委員会顧問